

## 2 ケリバーン<sup>かはん</sup>河畔の農夫

- ケリバーン<sup>かはん</sup>河畔に一人の農夫が住んでいました  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)  
農夫には長年 手に負えない女房がいました  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- ある日 農夫が深い谷に分け入ると 5  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)  
悪魔に出会って 「やあ こんにちは」とごあいさつ  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「わしには悪妻がいて それがこの世の悩みの種で  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる) 10  
失礼ながら 女房と比べりゃあんたは天使」  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「おまえさんの子牛でも子馬でもなく  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)  
女房殿を 是非ともゆずってもらいたい」 15  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「それはもう 喜んで」 農夫は顔を輝かせ  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)  
「あいつと相性合うならば あんたは評判以上の大悪魔」  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗 20
- 悪魔は古女房を背中にかつぎ  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)  
哀れな行商よろしく 荷物を背負<sup>しよ</sup>って立ち去りました  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 女を<sup>やかた</sup>館に運び込み 25  
(おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる)  
「とっとと中に入りやがれ」と命じました  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

- さっそく 選りすぐりの手下を五十匹  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる） 30  
手をたたいて 女の見張りに当たらせました  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 古女房は 狂った熊のように大暴れ  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）  
一度でも手が触れたが最後 二度と近づく者はおりません 35  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 血の汗たらしめた小悪魔が壁越しに  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）  
「ああ大将 助けて この女にみんな殺られちゃう」  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗 40
- 悪魔は ナイフの刃に誓って言いました  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いている）  
「女房ってやつに繋がれた男こそ哀れ」  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 悪魔は 教会の鐘に誓って言いました 45  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）  
「結婚しなけりゃ 地獄も天国」  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- それから悪魔はふたたび荷物を背負って てくてくと  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる） 50  
老いぼれ亭主に返しにゆきました  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗
- 「わしは 人生のほとんどを悪魔で通ってきたが  
（おやまあ ヘンルーダがタイムと一緒に綺麗に咲いてる）  
女房というものに出会って初めて 地獄を知った」 55  
タイムは枯れても ヘンルーダはますます綺麗

（山中光義訳）